

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書の記載事項について

学校運営連絡協議会実施報告書

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立蒲田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画課（室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭（進路指導担当）、保健主任 計2名
- (4) 協議委員の構成
蒲田本町一丁目町会長、NPO 法人ピボットフット理事長、田進ゼミ池上校室長、学校法人片柳学園法人本部総務部総務課次長、蒲田東特別出張所長、大田区立蒲田中学校長、同窓会副会長、PTA 会長、都立高校元校長（キャリアコンサルタント）、元教育庁教育監（大学理事）、元蒲田高校校長 計11名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月15日（木曜）内部委員8名、協議委員8名
協議委員委嘱、評価委員選出、校内授業視察
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
今年度の取り組みについて説明、意見交換
 - 第2回 令和5年10月12日（木曜）内部委員7名、協議委員10名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和6年2月8日（木曜）内部委員7名、協議委員9名
学校評価アンケートの結果、これまでの教育活動に関する報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年10月12日（木曜）内部委員2名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和6年2月8日（木曜）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象：387人	回収：364人	回収率：94%
・11月	保護者全員	対象：387人	回収：228人	回収率：54%
・11月	地域・住民	対象：20人	回収：15人	回収率：75%
・11月	教職員	対象：43人	回収：43人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
・学習指導、生活指導、進路指導、保健指導・美化活動、体罰防止・いじめ防止、課程・地域のとの連携、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要
 - (ア) 学習指導
ICT機器を活用した丁寧な学習指導や保護者連絡を行ったことで、保護者からの高い評価を得ることができた。次年度は、3学年すべてでスマスク端末を活用した授業に取り組めるので、ICTの活用をさらに進めるとともに、UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた授業作りを学校全体で取り組んでいく。基礎的基本的な学力の定着に向けて落ち着いた環境の中で、より分かりやすい授業ができるように検討を進めていく。学習に取り組む意欲については、生徒、保護者の約7

割が肯定的な評価をしているが、教職員の評価は低くなっている。教職員の求める水準と生徒、保護者が求める水準に乖離があるためと考えられる。生徒理解を深め、生徒の学習意欲が喚起できるように授業を工夫し、基礎学力の定着を図っていく必要があると考える。

②について、進路活動を実際に行っている3年生の数値が4%高くなっている。進路活動を通して、きめ細やかな指導を受けていると生徒、保護者ともに感じている結果であると考察する。③については、教職員が共通理解を図り、指導の徹底と、学習意欲を喚起する工夫が全教員に求められている項目である。生活指導上の問題については、注意する教員と見逃してしまう教員がいると、互いに同じ学習環境を整えていくことに支障をきたしてしまうことから、今後も同じ意識で指導の徹底を図っていく必要がある。⑮については、約7割、⑯については、8割以上の生徒、保護者が肯定的な回答をしているが、教職員の評価は昨年度同様に低くなっている。教職員の求める水準と生徒、保護者が求める水準に乖離があるためと考えられる。生徒理解を深め、生徒の学習意欲が喚起できるように授業を工夫し、基礎学力の定着を図っていく必要があると考える。(5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)

(イ) 生活指導・学校生活

生徒自身が考え、自分の行動を変えていく「自己指導能力」を高められるような指導方法を検討していく必要がある。行事に関する項目は、生徒、保護者、教職員ともに肯定的な評価が昨年度よりも多くなっている。制限が緩和され、充実した学校行事が行えた結果だと考える。部活動については、「部活動活性化」を学校経営計画に掲げ指導を行っていることもあり、教職員の肯定的な評価は高くなっている。しかし、生徒、保護者はともに他の項目に比べ、肯定的な評価が少ない。部活動は、技術力を高めて試合やコンクール等でよい結果を残し、生徒たちの自己肯定感を高めるという役割もあるが、居場所としての役割もある。結果だけを求めるのではなく、他学年を交えた活動の中で、自主性やコミュニケーション力等の非認知能力を高める機会としたい。そのためにも、活動の見える化等を行い、部活動の活性化に努める。

(ウ) 進路指導

「進路指導・最重点主義」を掲げ、面接指導や試験対策など、全教員で関わりながら計画的で丁寧な進路指導を行っている。また、生徒の実態を踏まえた進路指導を行い、進路内定率も高いことから生徒、保護者共に肯定的な評価が多くなっている。今後、キャリア教育指導計画を更に改善し、第1学年からの系統的・組織的なキャリア教育・進路指導を推進し、的確な進路情報の提供と進路相談体制を整備することにより、進路意識高揚と多様な生徒の進路実現を図ることが重要である。

(エ) 教育相談・美化指導

今年度は、ケース会議や情報交換会において、参加する教職員が増えたため情報共有がスムーズにできた。課題としては、情報共有だけで終わってしまうことが多くあり、具体的な手立てまで話を詰めることがほとんどできなかった。次年度は、具体的な手立てについて話し合う機会を多く設け、教職員一人一人のスキルを高められるような会議運営を検討したい。

YSWの人数が4人から5人に増え、それぞれの専門性を生かした的確なアドバイスが、良い方向につながったケースが増えた。

校内美化は保健部を中心に組み組んでおり、来校者からはきれいな学校との評価を受けることが多い。安心・安全で落ち着けるきれいな環境づくりを今後も推進していく。

(オ) 地域との連携

全体として、肯定的な意見が前年度よりも増加傾向にあり、否定的回答・無回答はともに減少傾向にある。地域の中の学校として、地域の皆様と共に活動できる機会を与えていただけるように、授業や学校行事の公開等による情報発信を引き続き行っていく。また、生徒のボランティア活動等を通じて蒲田高校への理解を一層深められるようにしていきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度の転退学者数が大きく減っていることを外部委員の皆様から評価していただいた。更に、生徒が安心した環境の中で充実した生活が送れるようにするための助言をいただいた。
- ・学習環境やUDフォントの使用など、学校全体で教育のUD化が進んできているとの評価をいただいた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校評価アンケートの結果から、学習に対する教職員の求める水準と生徒、保護者が求める水準に大きな乖離がある。生徒理解を深め、生徒の学習意欲が喚起できるように授業を工夫し、基礎学力の定着を図っていく必要がある

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 学校運営
 - ・教育のUD化の更なる推進。
 - ・募集対策の改善。
 - ・地域との連携強化。
- (2) 学習指導
 - ・生徒の実態を踏まえ学習指導。
 - ・誰にとっても分かりやすい授業作りの更なる推進。
- (3) 特別活動
 - ・生徒会機能の更なる充実。
 - ・各種行事において、生徒が主体的に活動し達成感、充実感を高められるような取組の推進。
- (4) 生活指導
 - ・部活動の活性化に向けた取組の一層の推進。
- (5) 進路指導
 - ・3年間を見通したキャリア教育の充実。
 - ・自己決定力の強化。
- (6) 健康・安全
 - ・生徒が心身ともに健やかに生活できるように、学校医、SC、YSWとの連携を更に密に図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 11人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
11	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- 【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人
- 【成果】 出席無し

8 その他
特になし